

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

5月新センター業務稼働に向けて準備が開始されました。

- 雑貨・特別企画品6人分マルチピッキング業務先行試験。
- 3月1回より調味料・食品・乾物・菓子の基礎商品が毎週注文できるようになります。
- 3月1回より Weekly のカタログが「くらしのカタログ」として旬・産地・健康で経済的な手作り・食やくらしをめぐる状況等、くらし方の情報誌として生まれ変わり、順次充実させてゆきます。

○新センター、外装ができました!



↑外装がたちあがり、ただいま玄関の装着中 (1/22)

1Fは仕分センター、配送車両のプラットフォーム側。2Fは事務所、会議室。

←裏側(東面) 2Fは左からラウンジ、組合員室、調理実習室、商品検査室と連なります。



←新センターが稼働する前に、仮倉庫で同じレイアウトでドライ品のマルチピッキングシステム(※)の稼働試験。

※6人分の注文品を一度にピッキングするシステム。

【催しものご案内】

○わたの交流会

■わた畑仕事〜芋焼き交流会

2月7日(土) 10-13時 (雨天の場合 2/8)

つくば共同農場わた畑にて

■第2回わた繰り交流会

2月14日(土) 10-15時 生協本部(倉庫)

○「捨てる前に、ちょっと待って！」

(理事会リサイクルチーム主催)

■古ハガキ、チラシ類古紙の活用法

2月9日(月) 10-12時

守谷中央公民館美術室

40周年「わたしの生協 ひとことメッセージ」(組合員) 3

〇出会うべくして出会った！

第1子の出産をきっかけに常総生協に加入しました。入ってみてびっくり。こんなに食の安全にこだわっておられるとは知らずの加入でした。元々安全性については興味を持っていたので、出会うべくして出会ったのでしょうか。今後も色々情報発信して行って下さい。(流山市 Iさん)

〇食のグローバル化の中で

8才の娘がお腹にいる時、友人から紹介され会員となりました。食のグローバル化が加速していて、スーパーで買い物する時に、安心してかごに入れない商品が増えてきました。これからも安心して食べられる国産の食品を多く扱って頂きたいと思います。(柏市 Sさん)

〇食べることは生きること

食べることは生きること、口に入れ体をつくる食べ物は安全なものを選びたい(特に子ども、若い人達)。(松戸市 Nさん)

〇ラッキーで幸せなこと

こんな真面目な生協と出会えたことは、とてもラッキーで幸せなことです。これからもよろしくお願ひします。(我孫子市 Mさん)

〇昔は、今は・・・

新しい団地1棟(11階)まるごと常総生協の職員による勧誘で加入しました。生協歴23年です。昔の一生懸命で正直なところ、今は自己満足的なところが鼻につくことがあります。安全な食品を提供することに努力してくれている生産者を大事にしてほしい。もちろん思っているのですが。(利根町 Iさん)

〇懸命さ・・・誇りに思いました

大震災の後の放射能の影響について、本当に私達の知りたい点を細かく調査して下さいありがとうございました。難しくよくわからなかった点もありますが、懸命に調べて伝えて下さる情報がどこよりも信頼できるものでした。誇りに思いました。(龍ヶ崎 市 Kさん)

〇入ってみたら普通でした！

組合員歴2年。40周年おめでとうございます。常総生協に入る前、なんとなく敷居が高い気がしてなんとなく入りづらいイメージがありました。でも、実際縁あって入ってみたら普通でした(笑)。でも信念の強さが違うと毎回いただくニュースレターで感じました。特に放射能関係については生協から発信される情報が頼りになることが多く、安心したり危機感を覚えたり、ただ生協の組合員であるだけなのに、たくさん勉強させていただいています。ありがとうございます。小さい生協で予算もキュウキュウのようですが、今と同じ、それ以上に草の根のための生協でいてほしいと思います。(土浦市 Nさん)

〇あらためて教えてみると

常総生協の組合員になって12年になります。あらためて教えてみると12年もお世話になっていることに驚きました。それまでは他生協に加入していましたが(班の一員として)、子どもの保育所の送迎も終わり、個配でも配送費がゼロということで移りました。配送費がかかるようになりましたが、常総生協の取り組みは、すべてにおいて真剣に取り組んでいると思います。今年は総代になりましたがなかなか行事に参加できず申し訳なく思っております。今後ともよろしくお願ひします。(石岡市 Mさん)

〇手作りする楽しさも

茨城に来て18年。来たばかりの時、アレルギーの子の為に良い生協はないかと教えて頂いたのが常総生協さんです。親戚も友達も車もない中、ずいぶんと助けていただきました。買うものだとばかり思っていた味噌、らっきょう、梅干しなどなどの作り方、作る楽しさも教えていただきました。今は息子達も一人暮らしをはじめた為、頼む量もすっかり減ってしまいましたし、イベントなどに参加する機会も減ってしまいましたが、常総生協なしの生活は考えられません。これからもよろしくお願ひします。(常総市 Yさん)

〇食材について考えるようになりました

職員生産者の皆様、いつもありがとうございます。私は常総生協を始める前は食に関して何のこだわりも持っていませんでしたが、生協を始めてから、少

しずつですが食材について考えるようになり、出来るだけ体に安全で安心なものを取るように心がけるようになりました。これからも食に関しての色々な情報を教えて下さい。(守谷市 Tさん)

○無関心に過ごすことが少なくなりました

特別なきっかけは特に無かったと思います。気がついたら入会していました。添加物、環境の汚染に関心がありました。遠くまで(少し離れた所)まで品物を取りに行き皆で商品を分けたりしましたね。どんな出来事も無関心に過ごすことが少なくなりました。「入ってよかった」とつくづく思っています。常総生協の良いところは色々な事に一生懸命に取り組んでいるところ。生産者を大切にしていること。自分で注文書が入力できるまでよろしくお願い致します。(守谷市 Fさん)

○営利目的で商品を扱わないところ

常総生協は、夫の勧めで組合員になり、30年前後かなと思います。常総生協の好きなのは営利目的で商品を取り扱わないところ。私の場合、普段見慣れた食品でも、食べて少し経ったころ、不調が起きたりすることがあるので慎重になり、主な食は、常総生協のもので、出来る限り手作り派です。

これからの常総生協について食は命の基本なので、クッキングキャラバンは続けてほしいです。そして、プロから見た食をめぐる環境変化なども知りたいです。(取手市 Sさん)

○前向きに協力しあって

常総生協40周年、おめでとうございます！良い物、本物の物にこだわっておいしい物を日々届けてくださる皆さんに感謝の気持ちで一杯です。どんな事があっても、前向きに協力し合っていきましょう。下村進さん(前監事・故人)には大変お世話になり、ありがとうございました。下村さんの大きな愛に見守られて、より良い生協になりますように。(牛久市 Oさん)

○思いは同じ

長男が生まれて間もない頃、常総生協と出会い、生活がガラリとかわりました。長男は5年生、次男も1年生となりました。病気にしらず(医者いらず、かな)の生活を送っています。安全でおいしい食べ物を作り、届けるという仕事をはじめています。なかなか一緒にできませんが(イベント等)、目指すところ(思い?!)は同じかなあと日々、精進しています。これからもよろしくお願いします。(つくば市 Yさん)

「わたしの生協 ひとことメッセージ」ぜひ全員から！

昨年10月に募集しましたが、ニュースを見落とされた方もいらっしゃるかと思います。これからでも間に合います。ぜひお寄せください。組合員・生産者のひとことを集めて、「40周年記念誌」にまとめさせていただきます。

キトリ

わたしのせいきょう みんなの一言メッセージ

○どうして常総生協の仲間になったの？

○生協の会員になって何年になりますか？

○常総生協の好きなお店、改善したいところ。

○これからの常総生協に期待すること、みんなでやってみたいこと、参加してみたいこと。

氏名 _____ 生協歴 _____ 年 住所(市町村) _____

○【藤井養蜂場】(東京等目黒区)

はちみつ、食彩酢ほか

20年も前、常総生協に飛び込みで糟谷さんに出会えたのがきっかけです。何も知らない私に生活協同組合の意義を教えてくださいました。

「なのはなプロジェクト」(*)に参加させていただいたのを機に、はちみつの採蜜体験を行ったり、はちみつ料理講習会開いてきました。常総生協は組合員にとって身近な存在であり、私たち生産者と組合員を繋げる存在だと思います。今は、三者一体となって様々な問題を共有できます。職員さんはもっと組合員さんに、生産者に問いかけて頂きたい。私たちも組合員にとって、もっと身近な存在でありたいです。組合員、職員、生産者の方々、一人ひとりがもう一歩前へ進む努力をすればと思います。頑張りましょう。



三浦さん



なのはなプロジェクト

↑ミツバチの巣をみんなに見せる 2001年当時の三浦さん。隣が石塚さん。

←ドラム缶の遠心分離機で蜜を絞る子どもたち。下からはハチミツが落ちる。



○【土れ味農園】(茨城県石岡市)

無農薬野菜セット・有機卵

40周年おめでとうございます。私は、旧八郷町に移り住み、新規就農と同時期に常総生協の組合員になりました。小規模の生協が続々と合併し、スーパー



天池さん夫妻

ストア化していく中、頑固なまでに相互扶助の精神を貫いていることに賛同したからです。

時を同じくして、生産者としてのお付き合いも始まりました。あゆみ出したばかりのヒヨコ農家を応援して下さい、今では野菜セットや自給卵等を取り組んで頂いています。

農家として軌道に乗った時、原発事故があり、当初は辞めるしか無いかと思い悩みましたが、素早い常総生協の被災者支援や積極的な土壌の放射能検査等の活動は、大きな励みとなりました。まだまだ、原発再稼働の動きなど心配はつきませんが、常総生協と共に歩んで行きたいと思いますので、今後共どうぞよろしくお願いいたします。



昨年10月我孫子での「はちみつ講習会」真ん中に三浦さん

※常総生協なのはなプロジェクト 2000-2005

遺伝子組み換えなたね油の輸入に反対して組合員がなたねを植えて収穫、搾油までを実践した。全国転地養蜂組合に所属する我孫子市出身で丸森町(宮城)の養蜂家石塚さんが利根川河川敷や八郷の菜の花畑にミツバチの群を置いてくれ組合員が採蜜体験。



↑団地の中に出現した組合員による菜の花畑(守谷市みずき野)

利根川河川敷の菜の花畑→



昨年11月のやさとの仲間交流会(軽トラに手をかける天池さん)